

## 2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 2 日作成)

委員会名	コンクリート・ポリマー複合体小委員会	主 査 名：大濱 嘉彦
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工本委員会(鉄筋コンクリート工事運営委員会)	委員長名：嵩 英雄
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	2001～2003 年度 「コンクリート・ポリマー複合体」に関する技術の現状報告書 (State-of-the-Art Report) の作成および公表 2003～2004 年度 「コンクリート・ポリマー複合体」の試験方法調査および試験方法(案)の作成	
委員構成 (委員名(所属))	大濱嘉彦(日本大学) 小川晴果(大林組) 飯塚 泉(日本化成) 池谷純一(清水建設) 池田 稔(建材試験センター) 叶 健児(住友精化) 小林利充(西松建設) 小宮山 正(サルク) 白井 篤(東京家政学院大学) 鶴田 健(マックス) 永井香織(大成建設) 堀田忠義(イテック) 松林祐二(太平洋マテリアル) 矢野 努(コンステック) 山田 康史(三井化学産資)	
設置 WG (WG 名: 目的)	無し	
2003 年度予算	100,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	9 回開催 : (4/21・4 名)、(5/27・10 名)、(6/24・6 名)、(7/22・7 名)、(9/2・8 名)、(10/7・8 名)、(12/9・5 名)、(1/26・9 名)、(3/2・11 名)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>(成果の具体的内容) 「コンクリート・ポリマー複合体」に関する技術の現状報告書(State-of-the-Art Report)を作成した。 第 1 回「コンクリート・ポリマー複合体」シンポジウム「環境に配慮したコンクリート・ポリマー複合体の使い方とその技術の現状」を開催し、成果の公表を行った。 ポリマーセメント珪砂、ポリマーセメントコンクリートおよびポリマー含浸コンクリートに関する試験方法・規格の調査を行った。</p> <p>(成果の学術的・技術的・社会的価値) 長寿命化建築は環境負荷低減を押し進める上で最も有効な手段といわれており、コンクリート・ポリマー複合体はその優れた耐久性から、建築物の長寿命化になくならない材料である。上記のシンポジウムでは、そのような観点からコンクリート・ポリマー複合体の適用事例と使い方の最新技術動向について報告した。更に、今後期待されるコンクリート・ポリマー複合体として現在萌芽的な研究段階にあるものや各種廃棄物のコンクリート・ポリマー複合体としての再資源化技術の最新の動向も報告した。このように本シンポジウムを通じて、コンクリート・ポリマー複合体に携わる技術者・研究者にとって極めて有用な情報を提供することができた。</p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係)  当初計画通りにシンポジウムを開催した。ポリマーセメント珪砂、ポリマーセメントコンクリートおよびポリマー含浸コンクリートに関する試験方法(案)の作成については、調査結果に基づき試験方法の作成が必要な具体的な対象を絞り込む事ができた。
その他評価すべき事項	上記シンポジウムでは、70 名の定員を上回る 78 名の参加者があり、学会の催し物として成功を収める事ができた。